



Title	アニメ聖地巡礼の地理学 : 「けいおん!」を事例に
Author(s)	上田, 明日香
Description	『コンテンツツーリズム研究/Journal of Contents Tourism Studies』【編集委員】岡本健・鎗水孝太
Citation	コンテンツツーリズム研究 : Journal of Contents Tourism Studies, 創刊準備号, 38-62
Issue Date	2011-12-31
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/50266">https://hdl.handle.net/2115/50266</a>
Type	journal article
File Information	CTS0_38.pdf



# アニメ聖地巡礼の地理学

## ―「けいおん!」を事例に―

上田明日香

### はじめに

「聖地巡礼」とは、本来「信者が聖地を参拝して巡り歩くこと。聖地巡拝。」（大辞林より抜粋）という意味である。ここでいう「聖地」とは、主に神社・寺院といった、昔から神聖な場所とされてきた地を指す。そしてその聖地を巡る宗教的な行為を、聖地巡礼と呼ぶのである。

しかしここ数年で、「聖地巡礼」といった言葉が、上で述べた意味と違った行為を指すことが急激に増えた。それは「アニメ聖地巡礼」または「聖地巡礼」、「舞台探訪」などと呼ばれている。

アニメ聖地巡礼のひとつの定義として、「アニメ作品のロケ地、またはその作品・作者に関する土地で、且つファンによってその価値が認められている場所を訪ねること」（岡本二〇〇

八）とあるが、本論文では、「アニメ・漫画・ゲーム等の作品の中で背景として描かれている、実在する土地を訪ねること」とし、一般的に「舞台探訪」と呼ばれている行動も含め、すべて「聖地巡礼」と記述する。また、その実在する土地についても、すべて「聖地」と記述することとする。

アニメ聖地巡礼の誕生は、一九九〇年代前半ごろであるという結果が明らかにされている。また、近年では、アニメファンが個人で聖地巡礼に関するサイトを作成し、情報を発信・サイト同士で情報を共有し合うといった事例も多くみられている（岡本二〇〇九）。

本論文の副題の「けいおん!」とは、二〇〇七年四月から二〇一〇年九月まで「まんがタイムきらら」にて連載されていた4コマ漫画、および、二〇〇九年四月から六月まで放映されていたテレビアニメーション作品の名称である。テレビアニメー

ションに関しては、第二期「けいおん!!」が2010年四月から九月まで放映されており、映画化も決定している。漫画原作はかきふらい、アニメーション制作は京都アニメーション、主な放映局はTBSである。本論文では、テレビアニメーションの「けいおん!」「および「けいおん!!」(以下「けいおん!」と統一)を重点的に扱うこととする。

これらの作品は、主人公である女子高生たち(平沢唯・秋山澪・田井中律・琴吹紬・中野梓)が軽音楽部で活動する様子を描いている学園物語だが、バンド活動よりも、主人公たちの「のんびりとした、至って平凡でよくありそうな女子高生の日常」を描くことに力を入れている。

アニメ放映開始後、作中で登場人物が使用している、実在する楽器や高価なヘッドフォン等が飛ぶように売れ、一部では社会現象とまで呼ばれた。他にも、主人公たちのバンド「放課後ティーンタイム」が歌っている、アニメのオープニング曲とエンディング曲がオリコン1位と2位を独占するといった、オリコン史上初の快挙を成し遂げるなど、アニメーション界だけでなく、音楽界にも大きな影響をもたらした。

「けいおん!」で主人公たちの通っている高校が、滋賀県犬上郡豊郷町にある豊郷小学校旧校舍群に酷似していることや、背景に実在する土地(主に京都府)が描かれていることから、ファンの間で聖地巡礼行動が起こっている。一部では、豊郷小

学校旧校舍群に訪れることを「登校」と呼んでいる。

こういった、アニメ・漫画・ゲーム等を起因とした聖地巡礼行動に関しては数年前から徐々に増えており、二〇一〇年十一月二十七日には、「コンテンツツーリズム研究会第1回総会」が開かれた程である。この総会は、「らき☆すた」の聖地とされている、埼玉県久喜市鷲宮町(以下、鷲宮町)で開催された。

この総会の第一部では、コンテンツツーリズムに関する研究発表会が行われた。発表者は、キャラクターのコスプレをした姿で壇上に立ち、各自の研究発表を行った。また、観客側の一部にもコスプレが見受けられ、従来の総会とは違った雰囲気の研究発表会となった。第二部では、名古屋の円頓寺を舞台に制作された地域映画「鷲宮☆物語」の上映、およびシンポジウムが行われた。このシンポジウムでは、地域発のコンテンツを今後どのように創っていくことができるのか、など、展開の難しい地域コンテンツについての意見交換の場となっていた。

以上のように様々な研究が行われている中で、聖地巡礼者についての分析や研究、およびその聖地の地域振興やまちおこしについての研究は数多く発表されているが、聖地の空間的特性や、制作者側の立場からみた聖地巡礼行動については、研究が不十分であると感じた。そこで本論文は、日本全国における聖

地の分布、豊郷小学校旧校舍群の特徴、京都府における「けいおん!」の聖地の分布、アニメと聖地の比較をもとに、聖地を空間的に捉えた地理学的な特徴や、制作者側の立場を交えた聖地巡礼行動が地域に与える影響について考察していきたい。

## 2. 日本全国における聖地の分布

「舞台探訪アーカイブ」というサイト上に掲載されている、アニメ・漫画・ゲーム等の作品を対象とし、日本全国における聖地の分布図を年代別に作成した。また、同じ作品の中でいくつもの聖地を持つ場合でも、その地域をすべて数値に含めた。ちなみに、一番多く聖地を持つ作品は、一九九八年に登場した「ラブひな」で、聖地の数は海外を含め十五か所である。年代は、作品自体が世間に登場した年で分け、一九九〇年以前・一九九一年～二〇〇〇年・二〇〇一年～二〇〇五年・二〇〇六年～二〇一〇年十月の、4項目で作成した。海外の聖地は「海外」としてひとつにまとめた。

データとして扱った作品の数は、一九九〇年以前が28作品、一九九一年～二〇〇〇年が83作品、二〇〇一年～二〇〇五年が163作品、二〇〇六年～二〇一〇年十月が228作品である。すべての年代の合計は、502作品であった。このうち、「舞台探訪アーカイブ」では二つ以上に分けられている作品を、筆

者の判断でひとつの作品としてまとめたものが数作品ある。例えば「THE IDOLM@STER」と「THE IDOLM@STER2」をひとつの作品として扱うなど、主にシリーズで続いている作品はまとめて、以下のデータとした。

## 2. 1 一九九〇年以前の分布図

一九九〇年以前は作品数自体が少なく、聖地の存在しない地域が多数ある。しかしその中でも、東京都にある聖地は他の地域と比べると飛躍的に多いことが分かる(図・1・2)。ここで、東京都だけでなく、海外に聖地を持つ作品の数にも注目したい。一九九〇年以前の作品の聖地に海外が多い理由として、当時の日本に現在のようなアニメ・漫画・ゲーム文化があまり浸透していなかったことや、単純に海外への強いあこがれが反映されているからではないか、と筆者は考える。

## 2. 2 一九九一年～二〇〇〇年の分布図

一九九〇年代となると作品数も大幅に増え、聖地の存在する地域も増えた(図・3・4)。1章で述べたように、一九九〇年代前半に聖地巡礼行動が誕生したことも要因のひとつであるだろう。

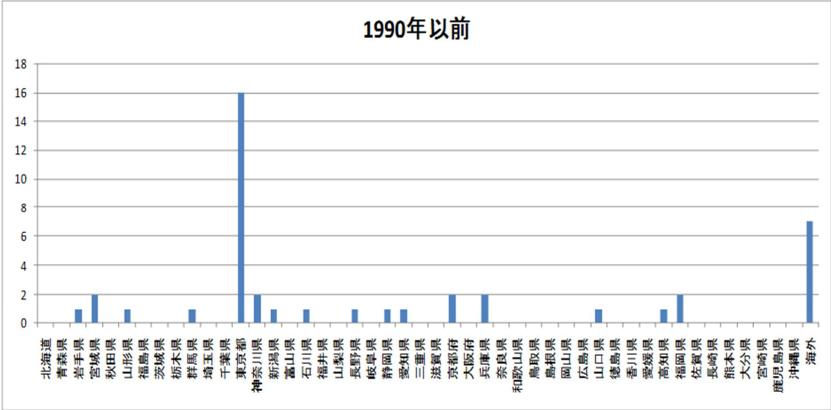


図 - 1 県別聖地作品数 1990 年以前（舞台探訪アーカイブを参考に、上田作成）

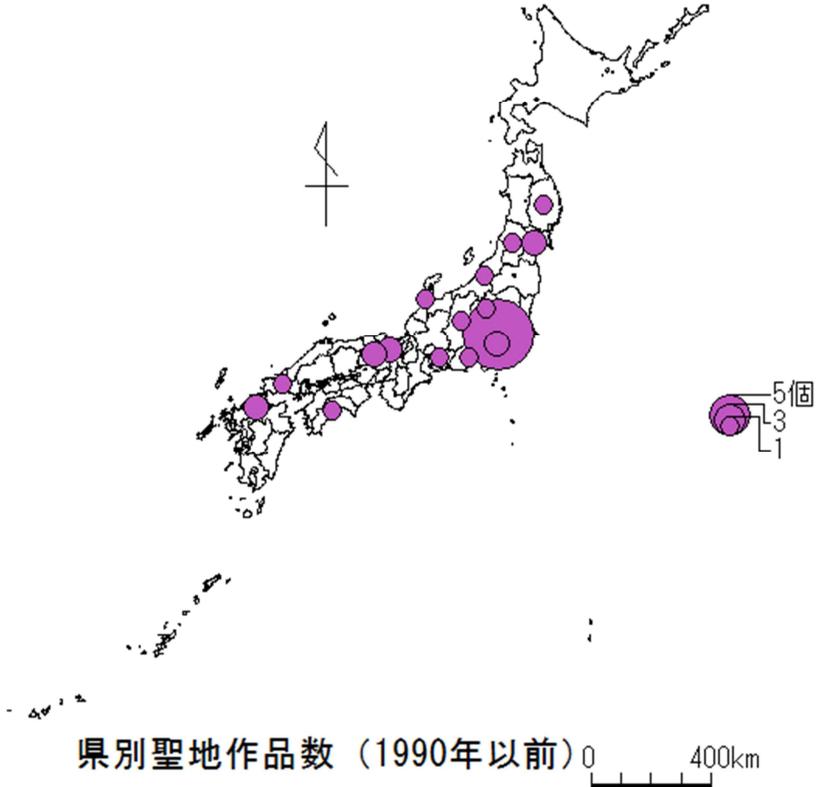


図 - 2 県別聖地作品数 1990 年以前（舞台探訪アーカイブを参考に、上田作成）

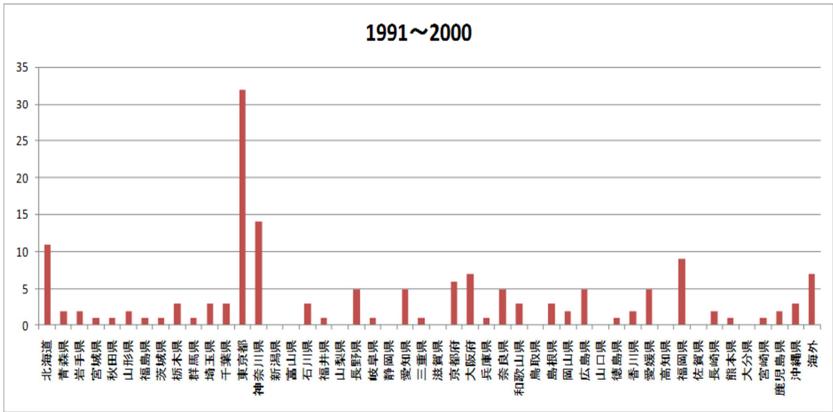


図 - 3 県別聖地作品数 1991 年～2000 年（舞台探訪アーカイブを参考に、上田作成）

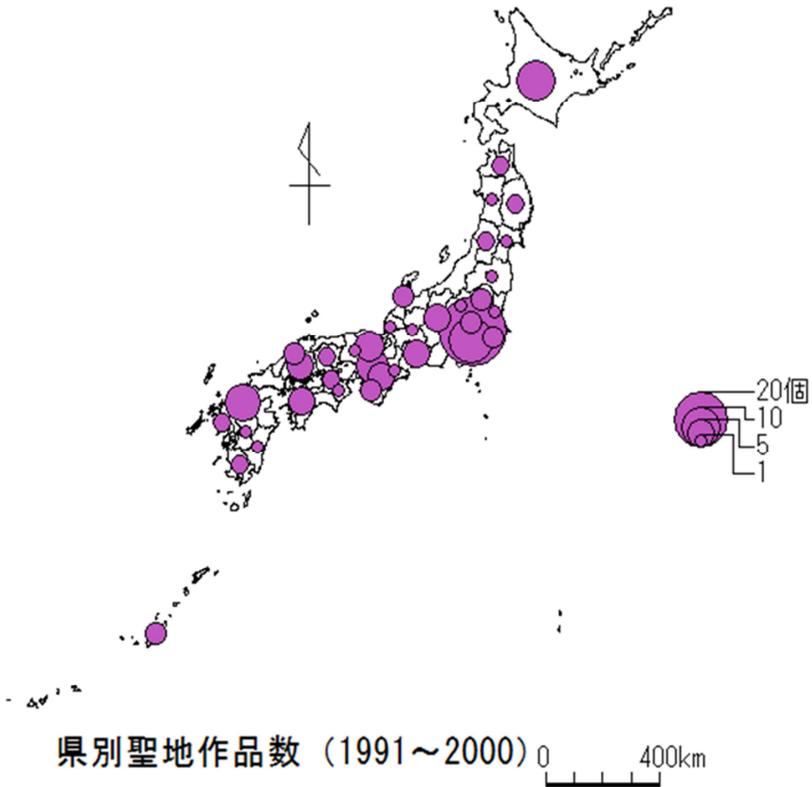


図 - 4 県別聖地作品数 1991 年～2000 年（舞台探訪アーカイブを参考に、上田作成）

この年代の作品の聖地は東京都だけでなく、地方にもまばらに存在していることが分かる。地図を見てみると、関東地方より西に聖地が集中していることが明らかである。しかし、聖地の存在する地域が増えたとはいえず、一九九〇年以前のデータと併せて見てみても、未だ聖地の存在していない地域が、富山県・山梨県・滋賀県・鳥取県・佐賀県・大分県と、6県あることが確認できる。一方、海外に聖地を持つ作品の比率は、一九九〇年以前に比べると減少していた。

## 2.3 二〇〇一年～二〇〇五年の分布図

二〇〇〇年代に突入すると、作品数が激増した。いわゆる「萌え」という単語が世間一般に知られるようになったころではないだろうか。「オタク文化」の急成長により、世間に登場する作品の数や、それを好むファンの数も比例して急増し、聖地巡礼者も同じように増えていった年代なのではないかと考えられる。

この年代の聖地の存在する地域を分析してみると、一九九一年～二〇〇〇年のデータでみられた「地方にもまばらに聖地が存在する」という傾向がなくなり(図・5・6)、東京都・神奈川県のみが群を抜いて数が多い、という結果になった。一方、二〇〇〇年まで聖地が存在しなかった、富山県・

山梨県・滋賀県・鳥取県・佐賀県・大分県の6県のうち、この年代で山梨県だけが聖地を持つ地域となり、二〇〇五年まで聖地を持たない地域が5県となった。

## 2.4 二〇〇六年～二〇一〇年二〇月の分布図

二〇〇六年から二〇一〇年十月現在までの作品数は今までの年代の中で最も多い。さらに、作品数に比例し最もファンの数や聖地巡礼者の数が多くなった年代であるともいえるだろう。また、数々のメディアで取り上げられた「らき☆すた」の聖地である鷺宮町の取り組みが世間に広く認知され始めたことも、ファンや聖地巡礼者が増加した大きな要因のひとつではないだろうか。

この年代では、二〇〇一年～二〇〇五年の分布図で明らかになった、「東京都・神奈川県のみが群を抜いて数が多い」というデータが、さらに顕著にあらわれることとなった(図・7・8)。228作品のうち164作品、約7割が、東京都および神奈川県、もしくは両方に聖地を持っているのである。また、地方に聖地を持つ地域の比率が大幅に減少したため、より東京都と神奈川県に集中している様子が分かる結果となった。

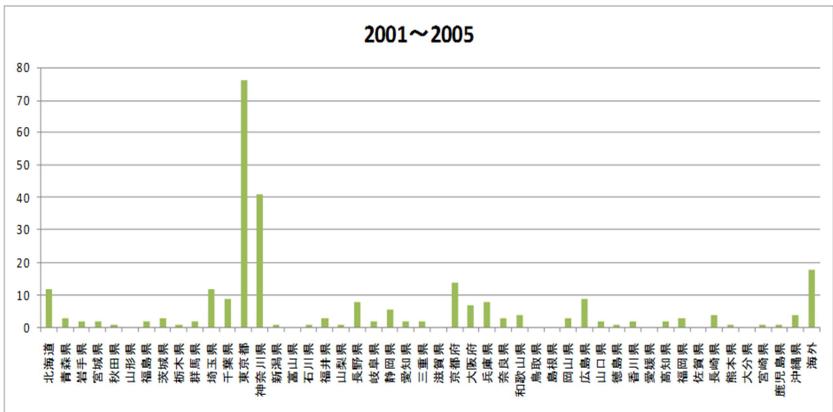


図 - 5 県別聖地作品数 2001 年～2005 年（舞台探訪アーカイブを参考に、上田作成）

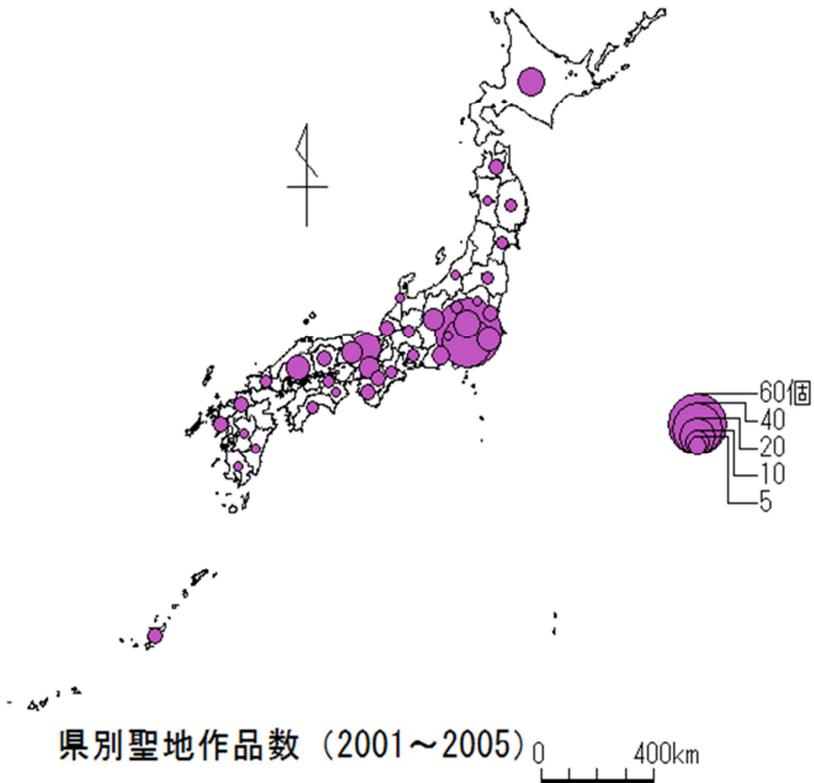


図 - 6 県別聖地作品数 2001 年～2005 年（舞台探訪アーカイブを参考に、上田作成）

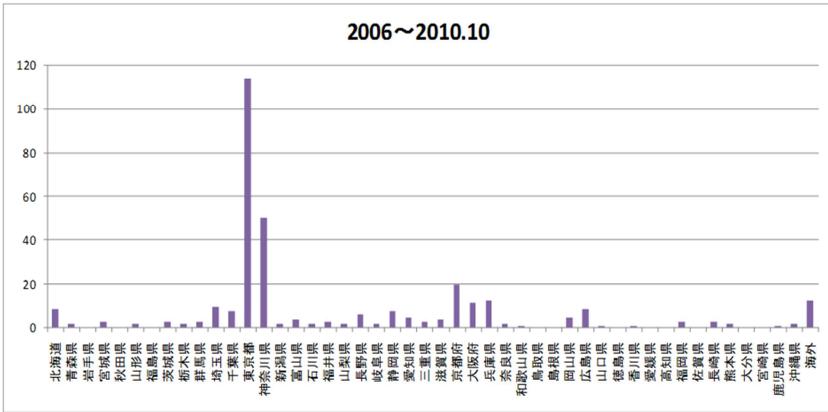


図 - 7 県別聖地作品数 2006～2010年10月 (舞台探訪アーカイブを参考に、上田作成)

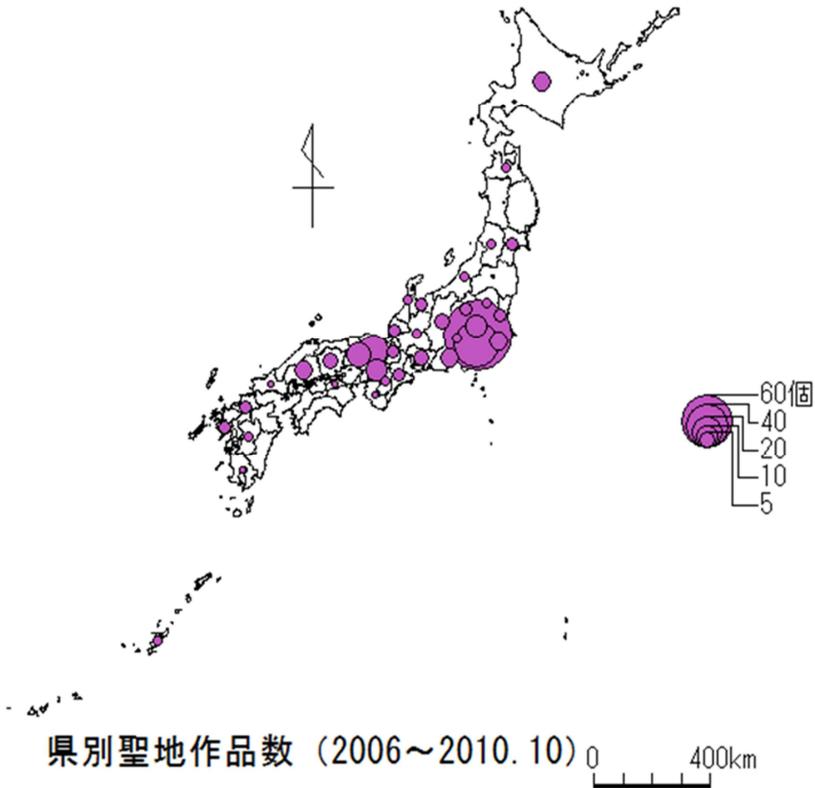


図 - 8 県別聖地作品数 2006～2010年10月 (舞台探訪アーカイブを参考に、上田作成)

## 2. 5 一九九〇年以前～二〇一〇年十月の分布図

一九九〇年以前から二〇一〇年一〇月までのすべての年代の合計を、年代別に色分けして分布図にした(図・9・11)。

この分布図を見ると、今までの年代と同様に、東京都・神奈川県のみが群を抜いて数が多いことが分かる。このふたつの地域だけで、日本全国(海外含む)の聖地全体の約4割を占めている。作品の割合でいうと、東京都および神奈川県、もしくは両方に聖地を持つ作品は、全体の約7割弱あるということになった。

一方、上のデータ(図・9)のみだと、東京都と神奈川県以外の地域の比較がしづらい。そこで、東京都と神奈川県を除いた地域のみで作品数のグラフを作成した(図・10)。このグラフを見ると、海外・京都府・北海道の順に作品数が多いことが分かる。しかし、鳥取県・佐賀県・大分県の3県には、聖地が存在していないことが明らかになった。また、東北地方・北陸地方・四国地方、および九州地方の一部に聖地を持つ作品の数が極端に少なく、このデータは地域差がはっきりとあらわれた結果となった。

### 3 調査対象地域

2章では日本全国の聖地分布について述べたが、この先は主に滋賀県と京都府に聖地を持つ、「けいおん!」を事例に進めていくこととする。

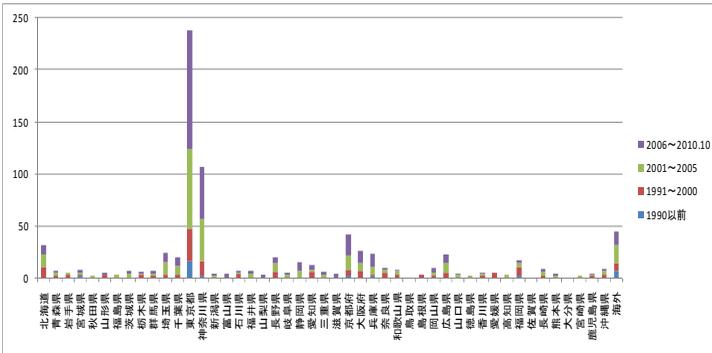


図-9 県別聖地作品数 1990年以前～2010年10月  
(舞台探訪アーカイブを参考に、上田作成)

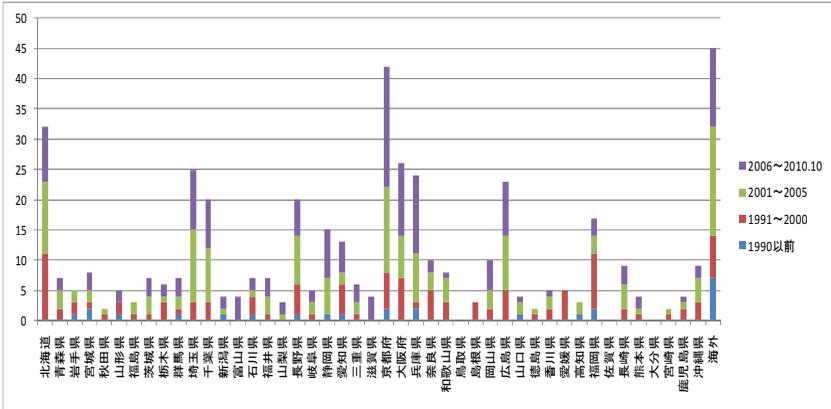


図 - 10 東京都・神奈川県を除く県別聖地作品数 1990年以前～2010年10月  
(舞台探訪アーカイブを参考に、上田作成)

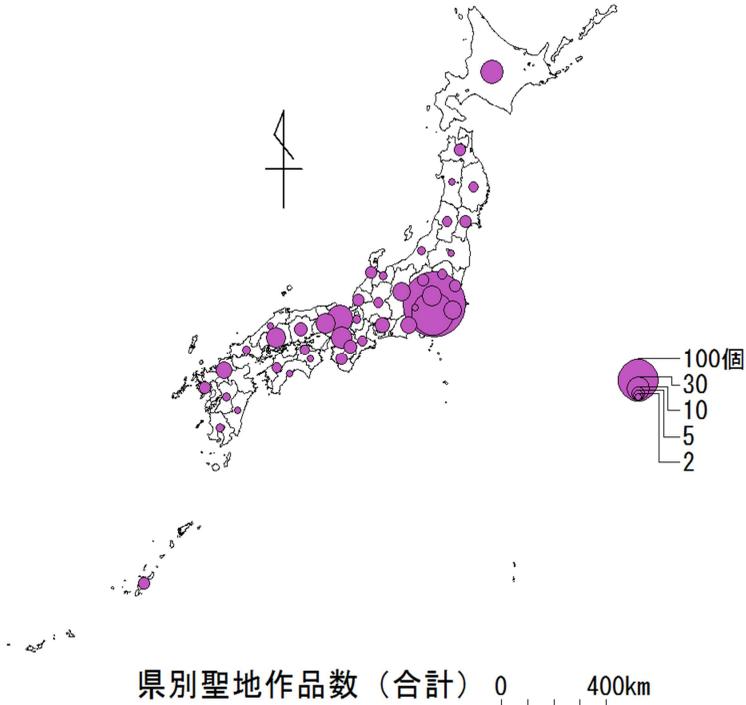


図 - 11 県別聖地作品数 1990年以前～2010年10月  
(舞台探訪アーカイブを参考に、上田作成)

写真 - 1 豊郷小学校旧校舎群  
(2010年8月23日、上田撮影)



「けいおん！」の主な聖地のひとつである豊郷小学校旧校舎群(写真・1)は、滋賀県犬上郡豊郷町(以下、豊郷町)に佇む。豊郷町は、面積7.82km<sup>2</sup>、人口七三五二人(二〇一〇年八月十二日現在)の、滋賀県内にある自治体で最も面積が小さい町である(図・12)。また、江州音頭の発祥地のひとつとして知られているほか、伊藤忠商事・丸紅創業者の伊藤忠兵衛の出身地としても有名な町である。この町にある駅は近江鉄道の豊郷駅で、通常は無人駅となっている。また、「けいおん！」の聖地として、京都府も広く知られている。ただし、聖地が多く存在するのは京都市内である。京都市は、面積827.90km<sup>2</sup>、人口1,463,444人(二〇一〇年九月一日現在)の、政令指定都市である(図・13)。京都市は十一の区

### 3. 1 調査対象地域の概要

(右京区・上京区・北区・左京区・下京区・中京区・西京区・東山区・伏見区・南区・山科区)で構成されており、全国の市で第六位(昼間人口では第五位)の人口を有し、京都府の人口の半分以上を占めている。



図 - 13 京都府京都市



図 - 12 滋賀県犬上郡豊郷町

(無料白地図サイトより上田作成)

### 3. 1. 1 豊郷小学校旧校舎群

前述したように、豊郷町には豊郷小学校旧校舎群が存在する。この校舎は、昭和十二年にアメリカの建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズの設計により竣工された。「白亜の殿堂」、「東洋一の小学校」と謳われ、文化財としての指定や登録こそないものの、その歴史的価値は広く認められている建造物である。旧校舎の特徴としては、明快で整然とした構成と、「イソップ寓話・ウサギとカメ」の物語に登場するウサギとカメをモチーフとしたブロンズ像（写真・2）が階段の手すりに裝飾されていることが挙げられる。このブロンズ像は、階段を上がることに物語が進展していくという、独特の表現が成されている。

この歴史的で斬新な校舎群を巡り、一九九九年から二〇〇三年まで、町と住民が衝突する事件が起こった。校舎の老朽化と耐震性を理由として、校舎の解体と新校舎の建設を目指す方針を、町が打ち出したのである。この方針に対して、改修保存を求め、豊郷小学校を卒業した住民などが反対し、「豊郷町の歴史と未来を考える会」が設立された。この会の住民グループによって、地裁に解体差止を求める仮処分申請が提出された。その申請は見事「校舎解体差止の仮処分決定」として地裁からくだされたのだが、町はその仮処分決定を無視し、突然解体工事を強行した。それに猛反発をした住民らは、工事を阻止する

ために泊まり込みなどを行い、町と対立した。その攻防戦ともいえる模様が当時ニュースとなり、豊郷小学校は全国の関心を集めることとなった。結果、町から旧校舎の改修保存と新校舎の建設が表明され、二〇〇四年三月、旧校舎の側に新校舎を完成させた。また、旧校舎（写真・3）は意匠を大切に保存・オリジナルの復元を目的として改修されることとなった。そして二〇〇九年五月三十日、改修された旧校舎は、豊郷町内の複合施設として新たなスタートを切り、今日に至っている（山根二〇〇二・二〇〇三）。



写真 - 2 ウサギとカメのブロンズ像  
(2010年8月23日、上田撮影)



写真 - 3 改修前の豊郷小学校  
(豊郷小学校 HP より転載)

表 - 1 旧校舍群および豊郷町に関するイベント表 (2009年11月~2010年10月)  
(今日の部屋・アッホーブログを参考に、上田作成)

11月		12月	
7	・豊郷小学校旧校舍 大掃除 ファンや滋賀県主催ツアー者による	27	・年末ライトアップイベント ヨガ・ダンス公演等の催し
22	・けいおんがく!ライブ 併せてコスプレイベントも開催		
28	・唯ちゃんお誕生日会 誕生日のお祝い&ファン交流会		
1月		2月	
16	・澤ちゃんお誕生日会 誕生日のお祝い&ファン交流会	20	・憂ちゃんお誕生日会 誕生日のお祝い&ファン交流会
31	・さわ子先生お誕生日会 誕生日のお祝い&ファン交流会 ・豊郷町レンタサイクル開始 地元住民からの提供:1日500円		
3月		4月	
13	・ライブ(酬徳記念館利用)	11	・ミニコースター発売 豊郷町内の店舗に設置
14	・オルゴール発売 チャリティーグッズとして寄贈される		
16	・定期清掃会		
28	・彦根東高校箏曲部の演奏会		
5月		6月	
1	・さわやかウォーキング JR東海主催・830人参加		
30	・豊郷小学校公開1周年 豊日中と龍谷大によるコンサート等		
7月		8月	
3	・ムギちゃんお誕生日会 誕生日のお祝い&ファン交流会	2	・豊郷小学校旧校舍群切手発売 郵便局からの発売
28	・近江鉄道記念乗車券第1弾 キャラのイラスト入り切符発売 豊郷町商工会青年部の協力で実現	7	・とつとまつり2010! 旧校舍群での地域の祭り
		21	・律ちゃんお誕生日会 誕生日のお祝い&ファン交流会
9月		10月	
5	・鶯宮土師祭(豊郷ブース) らき☆すたの聖地、鶯宮への出張	9	・とよさとアニソライブ2010!! 豊郷町商工会創設50周年記念
11	・近江鉄道記念乗車券第2弾 キャラのイラスト入り切符発売	30	・桜高文化祭&あきのごはん祭り 豊郷駅の改札を無人から有人に 観光協会による近江米の提供 スタッフ含め総勢1500人の参加

### 3. 1. 2 京都府京都市

京都府は、平成二十二年度の国勢調査のイメージキャラクターに「けいおん!」を抜擢した(写真・4)。若者に人気のある作品を起用することで、より多くの人々に認知してもらおうことができ、協力を呼びかけやすい。そのため、アニメのキャラクターを起用するというインパクトのある広報展開にしたのではないかと筆者は考える。また、「京都市が、漫画やアニメの舞台となった地域を紹介する観光ガイドマップ作成に乗り出す。漫画に登場した商店街などにファンを呼び込むのが狙いだ。京都国際マンガミュージアム(中京区)の協力も得て、来春の観光シーズンから配布する。」(二〇一〇年五月七日京都新聞より抜粋)といったように、京都市は漫画やアニメを利用した「まちおこし」を始めているとみられる。



写真 - 4 国勢調査促進ポスター  
(2010年10月2日、上田撮影)

### 3. 2 調査方法

本論文では、(1) 現地調査、(2) 豊郷小学校旧校舎群での聞き取り調査の2点で行った。

#### 3. 2. 1 現地調査

二〇一〇年八月二十三日および十月三日、豊郷小学校旧校舎群およびその周辺の調査を行い、豊郷町の現在の状況を知ることができた。また、旧校舎内にて「けいおん!」の中で使われている背景を写真に収め、アニメの背景との比較を行った。同日、町役場でもお話を伺うことができ、より一層考えを深めることとなった。

また、二〇一〇年十月二日および十月四日、京都市内を中心に調査を行った。豊郷小学校旧校舎群で行った時と同様に、作中の背景とされている箇所を巡り写真撮影を行った。この際、奈良県在住の関様に市内の案内をもらうことができたため、効率よく回ることができた。

#### 3. 2. 2 豊郷小学校旧校舎群での聞き取り調査

二〇一〇年八月二十三日、旧校舎の見学や撮影に訪れていた

巡礼者の方々にお話を伺った。全部で14人(男性11人・女性3人)の方に簡単な聞き取り調査を行うことができた。内容としては、年齢・どこから来たか・何回目の登校か・他の作品の聖地巡礼に行ったことがあるか・聖地巡礼についての意見、など、約五分程度の聞き取り調査となった。豊郷小学校旧校舎群に訪れる聖地巡礼者についてのアンケート調査は、「交流を促進する観光・アニメ聖地巡礼から考える」(岡本二〇一〇)に詳しいので、そちらを参考にさせていただきたい。

#### 4 現地調査による結果

##### 4.1 豊郷小学校旧校舎群の現在

近江鉄道の豊郷駅を出て、豊郷小学校旧校舎群までは歩いて一〇分ほどだったのだが、道中、目立った建物や観光施設などはなく、地元住民に行くわずこもなかった。

校舎内には、展示コーナーや子育て支援室センター、商工会室や会議室があり、複合施設としての役割は果たしているようだった。調査を行った日には、小さな子どもたちが校舎内で遊んでおり、その近くで母親たちが談笑している姿をたびたび目にした。また、休館日で入ることができなかったのだが、町立の図書館も旧校舎の一角を利用していることが分かった。一階の廊下には、「けいおん！」のポスターが貼られており(写真

5)、地域住民にもある程度は認知されているのではないかと感じた。酬徳記念館(旧図書館)では、土日祭日を中心に「けいおん!カフェ」(写真6)が営業されており、軽食や飲み物などを口にしつつ、ゆつくりとくつろげるようになっていいる。メニューは「けいおん!」にちなんだものが多く、値段もリーズナブルに設定されているのが特徴である。他に、酬徳記念館や音楽部室には、ファンからの寄贈品(グッズ・イラスト等)が多数飾られており、それを撮影するファンの姿も多く見られた。「けいおん!」グッズが多数集まるこの場所は、さながら博物館のようであると感じた。このように、旧校舎に訪れるファンたちが自らより居心地の良い環境を作り上げている様子は、一般的な観光地や名所には無い光景であるだろう。



写真-5 豊郷小学校旧校舎群1階廊下  
(2010年10月3日、上田撮影)



写真-6 酬徳記念館  
(2010年8月23日、上田撮影)

また、豊郷小学校旧校舎群およびその周辺地域では、「けいおん！」に関するイベントや、旧校舎群に関するイベント、豊郷町全体でのイベントなど、多様なイベントが開催されていることが分かった。主催者は様々で、中にはファンが主催として運営を執り行うイベントも存在するという。そこで、二〇〇九年十一月から二〇一〇年十月までの、一年間に催されたイベントを書き出すことにした(表・1)。このイベント表作成にあたり、「今日の部室」と「アツホーブログ」というブログサイトを参考にさせていただいた。このブログサイトの運営者は、「けいおん！」と豊郷小学校旧校舎群の地域振興に携わる方である。

#### 4. 1. 1 「けいおん！」と豊郷小学校旧校舎群

1章で述べたように、豊郷小学校旧校舎群は、「けいおん！」の主人公たちが通う「私立桜が丘女子高等学校(以下、桜が丘高校)」と酷似している。建物全体はもちろん、教室の中や階段・廊下など、細部まで似せてこだわっているように感じる。ヴォーリス建築の特徴であるウサギとカメのブロンズ像もそのまま作品の中に登場する。しかし、写真・7のように、一部だけ改変されている様子もうかがえる。



写真 - 7 豊郷小学校旧校舎群  
(2010年10月3日、上田撮影)

#### 4. 2 「けいおん！」と京都府

「けいおん！」の聖地として、上で述べた豊郷小学校旧校舎群以外に、京都府が挙げられる。京都府は、主人公たちの登下校や日常生活の場面で背景として使われている。そのアニメ背景と実際の場所を、で比較した(写真・8・9)。この比較で分かることは、実際に使われている店名や商品名が、アニメになると少し名前が変わっていることと、逆に住宅の形や信号機の位置、木や山の形はまったくと言っていいほど違いがみえない箇所も存在するということである。



写真・8  
松ヶ崎→京都造形芸術大学近辺  
(二〇一〇年十月二日、上田撮影)



写真・9  
京都市内  
(二〇一〇年十月二日、上田撮影)



京都府の聖地では、豊郷小学校旧校舎群のように、ファンによって「けいおん！」のグッズが飾られたり寄贈されたりするケースは確認できていない。しかし、第2話で主人公たちが「LOGIA」という楽器店に楽器を買いに行くという話があり、その聖地である「BEUGIA 三条本店」では、店内の一部にグッズやポスターなどを設置し、「けいおん！」にゆかりのある楽器店であることをアピールしていた。また、楽器売り場付近には、主人公たちのイラストが入った機材等が販売されており、こちらでも「けいおん！」を利用したビジネスが展開されている(写真・10)。



写真・100 JEUGIA三条本店  
(二〇一〇年十月二日、上田撮影)

#### 4. 2. 1 京都府における聖地分布図

ここでは、京都府における「けいおん!」の聖地の分布を明らかにするために、5万分の1の地形図にプロットした(図14)。地図の北は京都市北区、南は京都府八幡市、西は京都市右京区、東は京都市左京区である。地図上の黄緑色の点は、通学や日常生活で使われている背景の位置とし、青い点は、修学旅行の回で使われている背景の位置とした。この地図により、聖地の密集している地域が、主に京都市左京区に集中していることがわかった。ここは主人公のひとりである「平沢唯」の自宅があるとされる地域であり、アニメでの登場回数もひと

多い。次に、聖地が密集した左京区の拡大図を、2万5千分の1の地形図で作成した(図15)。

以上の地図を見ると、「平沢唯の自宅(黄色の点)」の位置から、桜が丘高校があるとされる「京都造形芸術大学」の位置までの、通学路にプロットが集中していることが分かる。また、通学・日常生活のプロットが打たれている地域には、「京都」をイメージさせる神社や寺院が少なく、アニメの背景の中にもそういった「京都」を決定づける建物や観光名所等が登場しない。しかし、修学旅行の回では、京都駅・金閣寺・北野天満宮・嵐山といった、京都ならではの名所が背景として次々に登場する。

#### 5 聞き取り調査による結果

二〇一〇年八月二十三日、豊郷小学校旧校舎群で聞き取り調査を行った。十四名への聞き取りを行うことができたが、その中から二名の回答を、本論文においての聞き取り調査の結果として記述することにする。

#### 5. 1 豊郷小学校旧校舎群での聞き取り

Aさんは、数えきれないほど豊郷小学校に足を運んでいると

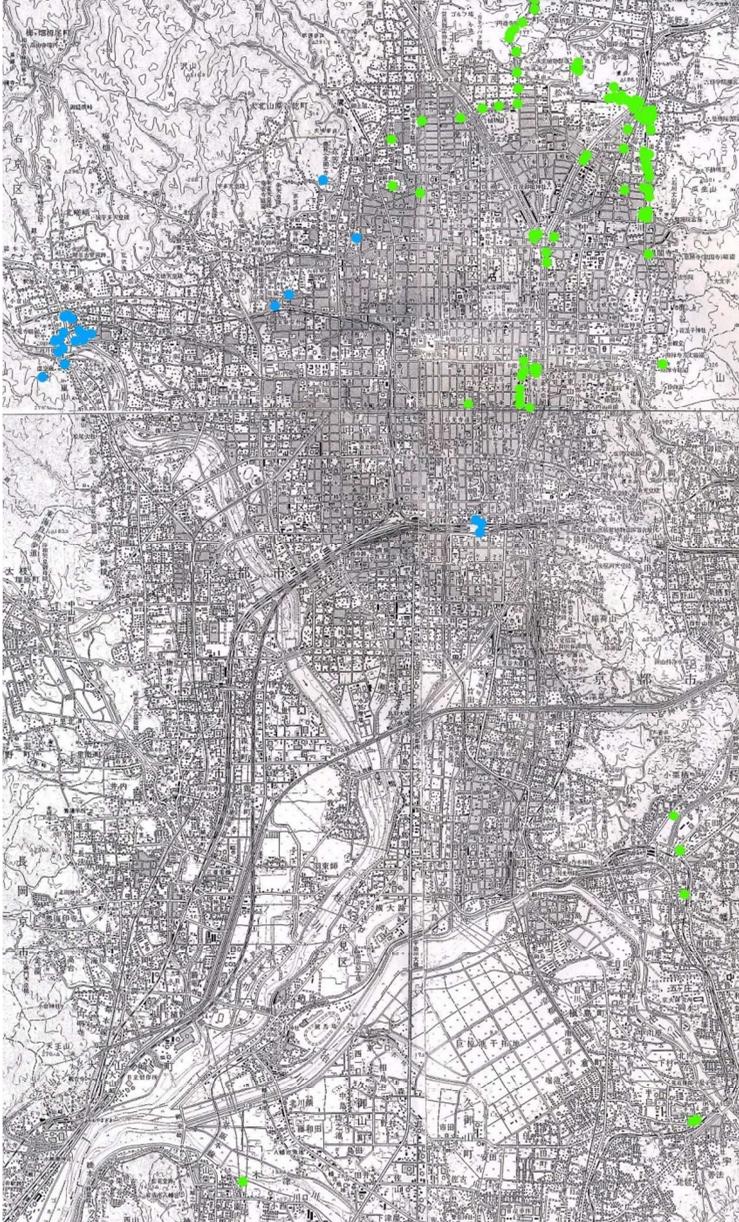


図 - 14 京都府における「けいおん！」聖地の分布図  
(現地調査により上田作成：5万分の1)

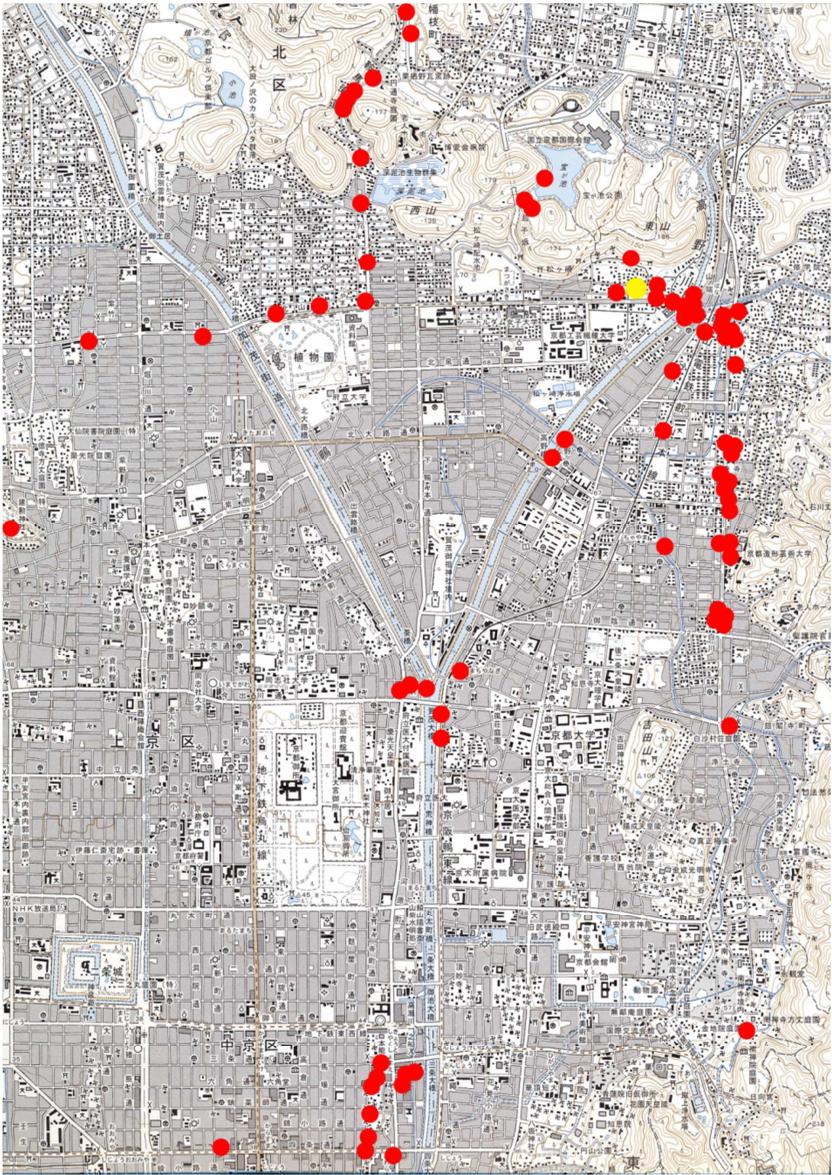


図 - 15 京都府における「けいおん！」聖地の分布図  
 (現地調査により上田作成：2万5千分の1)

いう、岐阜県在住の二〇代男性である。Aさんは豊郷小学校に訪れる理由として、ファン同士の交流を挙げた。同じ作品を好きな人だけが訪れる場所であるため、居心地が良く、足を運びやすいのだという。

Bさんは、豊郷小学校を訪れること自体は初めてだが、他の作品の聖地には何度も足を運んでいるという、神奈川県在住の二〇代男性である。Bさんにとって聖地巡礼とは、普段の旅行をより格別にするもの・好きな作品をより好きになるもの、であるという。また、アニメや漫画等を利用したまちおこしについては、まちがにぎわう良いきっかけになるのではないかと回答した。しかし、数年後にはブームが去り、巡礼者の数が減ってしまうのではないかと、との懸念もあった。

他の巡礼者の方々も、AさんやBさんのように聖地巡礼に対しての思いは前向きで、聖地に対する愛着もあるようだった。しかし、Bさんが懸念していた「アニメのファンの減少が、巡礼者の減少に繋がる」という課題は、他の巡礼者の方々も感じているようだった。

## 6 考察

### 6.1 「けいおん！」と豊郷町活性化

「けいおん！」の聖地である豊郷小学校旧校舎群の大きな利

点は、滞在できるスペースが広いことである。このスペースを利用し、様々なイベントを行うことができるため、地域振興に繋がりやすい。現時点ではイベントが少なく、鷺宮町のように地域が主体となつて行うような事例も少ない。また、豊郷小学校旧校舎群のもうひとつの利点として、歴史的価値の高い建造物であるということも挙げられる。そして取り壊しの事件を経て、地域の財産となつた旧校舎群は、豊郷町の歴史にも大きな意味のある建造物となっている。このように、他の聖地にはなかなかない広いスペースと歴史的価値のある旧校舎群を活かして、地域振興に繋げていける可能性は未知数である。

しかし、この恵まれた環境にある豊郷小学校旧校舎群にも欠点が存在する。それは、周辺地域にはほとんど住宅しかないということと、交通の便が悪いということである。そのため、聖地巡礼者は旧校舎群の中に留まつてしまい、地域の活性化に繋がりがづらい。自家用車で訪れる巡礼者は、離れた商店街や飲食店にも足を伸ばしやすいのだが、筆者のように電車でしか訪れる方法のない巡礼者は、やはり旧校舎群の中に留まつてしまうだろう。筆者は、これを改善し巡礼者に地域を巡ってもらうには、旧校舎群を拠点とした豊郷町巡回バスが効果的ではないかと考えた。豊郷町を巡回する、「痛バス」などが登場すれば、筆者のように旧校舎群の中に留まりがちな巡礼者も足を伸ばすことができ、より豊郷町を知り、より地域を好きにな

ることができる。だが、これには地域の多大な協力が必要不可欠になるため、巡礼者と地域の結びつきを強くしていく必要がある。

## 6.2 「けいおん！」と背景

「けいおん！」の背景で、主に京都府が使われている理由のひとつとして考えられることは、アニメーションを制作している「京都アニメーション」の本社が京都府に所在しているということである。しかし、背景が京都府であるにも関わらず、「京都」であると決定づけられるような寺院や神社、名所や観光地等は作中に描かれていない。これは「けいおん！」という作品のコンセプトが、「のんびりとした、至って平凡でよくありそうな女子高生の日常」であるため、背景もどこにでもありそうな町の風景を使っているのではないかと筆者は考える。また、修学旅行の回で京都府の名所や観光地等が明確に描かれていることから、「通学や日常生活での背景は京都府であり、主人公たちが生活している地域も京都府である」ということを曖昧にしているのではないかと感じた。しかし、曖昧にしなければならぬ理由は確認されていない。

## 6.3 聖地巡礼の可能性

聖地巡礼者や聖地のある地域からすれば、鷺宮町のように舞台を明確に発表してもらおう方が、コミュニケーションを円滑にでき地域活性化にも繋がるであろう。だが制作者側としては、作中の舞台を明らかにすることが必ずしもビジネスに繋がるわけではない。

以下に、コンテンツを中心とした、制作会社（コンテンツホルダー）・地域（住民・商工会）・聖地巡礼者（ファン）の関係イメージ図を示した（図・16）。

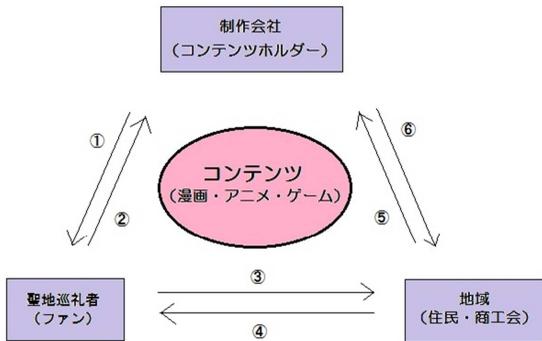


図 - 16 制作会社・地域・聖地巡礼者の相互関係イメージ図（上田作成）

このイメージ図に当てはまる代表的な項目を述べると、①コンテンツの供給、②会社の利益、③地域の宣伝・活性、④もてなしとなる、と筆者は考えている。しかし、⑤と⑥の項目に関しては事例が少なく、あるとしたらグッズ制作にあたっての著作権等の話し合い程度であろう。

「聖地巡礼」をきっかけとした狙いとして考えられることは、聖地巡礼者（ファン）は作品をもっと好きになること、地域（住民・商工会）は地域活性化に繋げることであるだろう。これに関しては既に達成している地域（鷺宮町など）も存在する。しかし、制作会社（コンテンツホルダー）はどうだろうか。会社としては、まず利益になることを考えなければならぬ。何をビジネスに発展させるか、どうしたらより利益を生むビジネスになるのか、これが重要であるだろう。ファンが主体である聖地巡礼行動にビジネスを介入させることは難しいが、うまく制作会社（コンテンツホルダー）が関わるることによって、さらに三者の発展・向上が見込める。著作権等のやり取りだけでなく、違った視点でどのように地域と関わっていくのか。これが今後、聖地巡礼行動の可能性を広げる重要な課題となるだろう。

## 7 おわりに

今回の調査で分かったことは以下の通りである。

### (1) 聖地について

- ・東京都・神奈川県・海外の順で聖地が多い。
- ・どの年代でも、聖地を持つ地域は東京都が一番多い。
- ・東京都・神奈川県だけで、日本全国（海外含む）の聖地全体の約4割を占めている。
- ・作品の割合でいうと、東京都および神奈川県、もしくは両方に聖地を持つ作品は、全体の約7割弱。
- ・オタク文化の急成長により、聖地巡礼が行われる作品が急激に増えた。

### (2) 豊郷小学校旧校舎群について

- ・豊郷小学校旧校舎群は、取り壊しの事件により地域の財産となった。
- ・現在は複合施設として機能しつつ、巡礼者の居心地の良い場所としても認められている。
- ・旧校舎群と「けいおん！」の背景は、一部の改変以外はほとんど一致する。
- ・広いスペースと歴史的価値のある旧校舎群を活かして、地域振興に繋げていける可能性がある。
- ・留まりがちな巡礼者も、旧校舎群を拠点とした豊郷町巡回パスがあれば足を伸ばして地域をより知ることができるのではないか。

・「らき☆すた」のように、巡礼者と地域の結びつきを強くしていかなければ地域活性化は望めない。

(3) 京都府について

・京都府はアニメを利用したまちおこしを始めている。  
・実際に使われている店名や商品名がアニメになると少し名前が変わっているが、逆に住宅の形や信号機の位置、木や山の形はまったく言っていないほど違いがみえない箇所も存在する。

・京都府における「けいおん!」の聖地は、京都市左京区に集中している。

・「京都」であると決定づけられるような寺院や神社、名所や観光地等は作中に描かれていないが、修学旅行の回では「京都」の観光地を訪れている。

・通学や日常生活での背景は京都府であり、主人公たちが生活している地域も京都府である、ということをや曖昧にしているのではないか。

(4) 聖地巡礼の今後の可能性について

・コンテンツに関わる制作会社・聖地巡礼者・地域の中で、聖地巡礼の中心となっているのは巡礼者と地域だけの場合が多い。

・ファンが主体である聖地巡礼行動に制作会社を介入させることは難しいが、うまく関わることによって、さらに三者の発

展・向上が見込める。

・著作権等のやり取りだけでなく、違った視点でどのように地域と関わっていけるのが、今後の聖地巡礼行動の可能性を広げる重要な課題となる。

(5) 自分の研究課題について

・海外の分布図を作り、世界規模で聖地の分析を行うこと。

・舞台探訪アーカイブに掲載されている作品だけではデータとして不十分なので、違う作品についても考えること。

・聖地のランキングをつけ、それを分布図にしてさらに詳しい分析を行うこと。

・アニメと聖地の関係性をより深く考察するために、アニメで登場する背景の登場回数やシーンに分けること。

・制作会社をどのように介入させることができるのか、データを集めて深く考察すること。

謝辞

本論文作成にあたり、本当に様々な方にお世話になりました。まず、聖地巡礼の研究者の輪を広げるきっかけと、京都市内の聖地の案内を無償で引き受けてくださった関係には、多大な感謝を申し上げます。そして、豊郷小学校で聞き取りに応じてくださいました巡礼者の方々、また、未熟な筆者の悩み等を聞いてく

ださったり、夕食会に誘ってくださったりと、豊郷町産業振興課の清水様をはじめ、豊郷小学校での皆様には大変お世話になりました。

二〇一〇年十一月二十七日のコンテンツツーリズム研究会において、北海道大学の岡本健様には全面的にお世話になりました。また、同じく北海道大学の山村高淑様、株式会社エンターブレインの正木様には、論文についての貴重なアドバイスをいただきました。アドバイスをうまく活かきまれているかは不安なところもありますが、そのアドバイス無しでは行きづまっていたことでしょう。本当にありがとうございました。

「聖地巡礼」の研究をきっかけに、想像できないほどの出会いがありました。友好関係もとても広がりました。県を越えて大学を越えて、こんなにも友人が増えるということは、研究という枠組みだけではなく、筆者の人生においても貴重な経験となりました。

何度もうけそうになりましたが、この研究をきっかけに知り合うことのできた皆様に支えられて「こ」までくることができましたことに、この場を借りて感謝申し上げます。

## ■参考文献

- 岡本健 (二〇〇八) 「アニメ聖地における巡礼者の動向把握方法の検討：聖地巡礼ノート分析の有効性と課題について」、『観光創造研究』、2, pp.1-13
- 岡本健 (二〇〇九) 「アニメ聖地巡礼の誕生と展開」、北海道大学観光学高等研究センター文化資源マネジメント研究チーム編『メディアコンテンツとツーリズム』、北海道大学観光学高等研究センター叢書(CATS叢書・第一号)、pp.31-62
- 岡本健 (二〇一〇) 「交流を促進する観光：アニメ聖地巡礼から考える」、観光交流講演会「これからの豊郷町の可能性について」での配布資料
- 山根周 (二〇〇二) 「文化財：学校建築？それとも単なる公共工事？：豊郷小学校改築問題」、『建築雑誌』、117, p.51
- 山根周 (二〇〇三) 「豊郷小学校問題が意味するもの」、『建築雑誌』、118, pp.36-37
- 『舞台探訪アーカイブ』 [http://logwork.g.hatena.ne.jp/]
- 『なごり聖地巡礼の旅』 [http://www1.kcn.ne.jp/~kbas/hp/burari\_menu.html]
- 『今日の部室』 [http://bushitsu.blog47.fc2.com/]
- 『ブッホーブログ』 [http://miyaseki.blog25.fc2.com/]